

会議のトピックス(III)

2003 Workshop on Nuclear Data Production and Evaluation (2003 年 8 月 28 日～29 日、Pohang)

住友原子力工業 (株)

山野 直樹

yamano@sae.co.jp

韓国 PAL (Pohang Accelerator Laboratory) で 8 月 28, 29 日に開催された核データワークショップに参加したので報告します。標記のワークショップは毎年 8 月末に Pohang (浦項) で行われており、今回で 6 回目になります。韓国の大学、研究機関から研究者や学生など 50 名程の参加があり、外国からは、日本、中国、ロシア、ベトナムからの参加がありました。日本からは馬場先生と D1 の萩原さん (東北大)、猪野さん (KEK) と山野の 4 名が参加・発表しました。

最初に PAL の所長である Dr. Namkung 氏から海外も含め多くの研究者の参加に対して感謝するとともに、第 6 回目になった本ワークショップの今後の発展に期待するとの言葉がありました。セッションは 3 つで合計 20 件の口頭発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。

最初のセッションは、実験施設・装置と測定に関するもので、PAL の 2.5GeV Linac を用いた研究活動、KIGAM における中性子 TOF 実験装置、韓国国立がんセンターの陽子線治療施設の進捗状況など、5 件の発表がありました。陽子線治療施設は来年 8 月に建設が完了、2005 年から実際の治療に用いる計画で、放射線遮蔽設計の結果が発表され、医療装置の許認可を受けるための活動が行われているとのことでした。

次のセッションは断面積測定と検出器に関するもので、8 件の発表が行われました。PAL の中性子施設における Ti, W の全断面積測定、今年の春まで京大炉にいた Samyol Lee さんの Dy-162, Gd-157 の捕獲断面積測定、馬場先生からは中性子・陽子入射における核種生成断面積の測定、萩原さんからは 25, 40MeV 重陽子による $\text{Li}(d,n)$, $\text{Be}(d,n)$ 反応による放出中性子スペクトルの測定、猪野さんからは、KEK パルス中性子源を用いた偏極中性子の実験計画などが発表されました。

2 日目はモンテカルロ法とデータ評価のセッションで、7 件の発表が行われました。

250MeV までの中性子断面積評価計算コードの開発、ENDF/B-VII に格納予定の FP 核データ評価の現状、中国の CENDL-3 の評価の現状、Generation-IV における核データニーズなどが報告されました、筆者（山野）は文部科学省からの委託で実施している革新炉のための総合核データ利用システムの開発について発表しました。最後に、本ワークショップのオーガナイザーの一人である韓国原子力研究所（KAERI）の Dr. Chang 氏より韓国の KOMAC 計画が認可され、核データの評価や応用を含む本ワークショップが今後一層重要になるとの言葉で研究会が終了しました。研究会終了後は、PAL の 2.5GeV 電子線加速器と中性子実験施設の見学が行われました。筆者は 2000 年のワークショップにも参加しており、その時にこれらの実験施設の見学をしましたが、今回は中性子実験施設に青いビニールシートが掛けられているのが印象的でした。

1 日目の夜には懇親会が行われ、韓国料理を楽しみながら日本、韓国、ロシア、ベトナムの研究者と懇談が行われました。日本人の多くは Pohang の夜の海岸散策も楽しんだようです。Pohang は日本海（韓国では東海と呼ぶ）に面しており、白砂の海岸で昔の日本の砂浜に似ています。

このワークショップは質疑応答も含めて全て英語による研究会で、韓国の学生にとっても良い経験となるように配慮されています。来年は日韓の合同サマースクールも 7 月末に計画されており、日本の学生や研究者の参加が期待されていますので、本ワークショップ共々日本からの積極的な参加を期待します。なお、報文集は KAERI のテクニカルレポートとして発行される予定です。



2003 Workshop on Nuclear Data Production and Evaluation の参加者